

卒業生の就職後の状況についての調査 2021 年度 報告書

2022 年 3 月 31 日
城西国際大学 看護学部

<調査の目的>

1. 新型コロナウイルス感染拡大による社会状況・教育方法の変化が卒業時の看護実践能力に与える影響の把握と対策を検討する。
2. 早期の離職を防止することを目的として、5 年以上同一の施設に勤務している卒業生の意見を集め、今後のより大規模な調査の基礎資料とする。

<調査方法>

1. 卒業生の主要就職施設(3 施設)の管理者・指導者からの意見聴取
2021 年 4 月に就職した卒業生の状況 – COVID-19 の影響
卒業生全体の勤務状況
2. 卒業生 10 名(5 年以上勤務の 4 名を含む)からの意見聴取
看護職としてのキャリアプランやワークライフバランスについて

<調査時期>

1. 主要就職施設からの意見聴取 2021 年 12 月～2022 年 3 月
2. 卒業生からの意見聴取 2022 年 2 月～3 月

<調査結果>

- ①対面授業・演習，臨地実習の機会の少なかった 2021 年 4 月に就職した新人の状況 – 例年との比較
- 知識面では，例年と変わらないかむしろあるくらいだが，技術力は低い。
 - 成長に時間がかかる新人看護師が多い傾向にある。
 - 実行力，想像力，協調性，倫理観が低い傾向にある。
 - 学習姿勢・態度は全体的に受け身である。主体性の不足を感じる。
 - 言葉遣いなど，社会人としてのマナーが身につけていない。大学時代に身につけてほしい。
 - 夜勤の開始時期や独り立ちの時期は，部署や個人によるばらつきがある。
 - 病院側では，新人オリエンテーションの技術演習時間を増やした。
 - 大学での学びで不足していたことは，オリエンテーション期間や現場でかなり学ぶことができている。
 - ストレス対処の方法が限られている印象を受ける。
 - 患者様とのコミュニケーションはよくできているが，先輩や上司とのコミュニケーションには時間がかかる。
 - 先輩等と仕事以外の交流の機会が少ないことが，現場の緊張感を高めているかもしれない。
 - 過去にはなかった早期の離職がある。

- 学生の時の実習が少ない分、配属前の研修を強化した。
- 多重課題の遂行能力には個人差が大きい。

②卒業生全体の勤務状況について

- 1年以内の早期の離職はほとんどない。
- 奨学金の貸与免除期間(4年)を過ぎると退職する傾向が強く、時間と労力をかけた人材育成が無駄になる。
- 4年経つと、特に目的がなくても退職する例もある。就職する時から4年で退職を決めているかもしれない。
- メンタルヘルスの不調をきたす場合があり、配置を変えるなどして対応している。
- 奨学金を受けていて就職してくる場合には、就職活動をしていないこともあり、やっとなつかみとったという感覚がないのかもしれない。
- 卒業しても、学生時代の友人とのつながりは強く、支えになっている。

③卒業生のキャリアコース、キャリアプラン、ワークライフバランスについて

- 仕事をしていく中で、自分に合った、自分がやりたい方向性を見出すことができる。
- 4年くらい経つと周りで辞める人が多かったので、自分も辞めた方がいいのか迷った。
- リーダーなど、病棟で責任のある立場を任されることによって、さらに力がつく。
- 認定看護師などの資格を取得するなどの目標があって、仕事のやりがいを感じる。
- 研修会で学び資格を取得する機会をいただいたことで、さらに仕事の幅が広がった。
- 結婚、出産しても続けていける仕事、家族と協力したり、勤務時間や勤務部署を変更したりして対応した。
- 部署が変わると慣れるまでは不安もあるが、確実に力がついていく。

<今後に向けて>

今回の調査を通して、新型コロナ感染拡大の影響によって、対面授業や臨地実習の機会が少なかった卒業生は、例年と比較して隣地での技術力、実行力、想像力、協調性、倫理観がやや低い傾向にあると捉えられていた。また、在学中や就職後のコミュニケーション、特にインフォーマルな交流の機会の不足からか、コミュニケーションの課題もある。一方、知識の不足はそれほどでもなく、技術については、就職後のオリエンテーション等である程度修得できているようであった。

大学時代に身につけてほしいこととしては、社会人としてのマナー、ストレスへの対処能力、主体性等があった。主要就職施設では、卒業生全体の傾向として、奨学金貸与免除期間の4年が経過すると多くが退職してしまうことをあげていた。卒業生も、特に理由がない場合でも4年程度で退職する卒業生が多いことを述べている。在学中は、看護学の専門的な知識・技術を学ぶことが中心となり、看護職としてのキャリアコースについて知る機会やキャリアプランについて考える機会が不十分であることが考えられる。これらの結果を受け、2022年3月には、卒業間近の4年次学生と卒業生のオンライン交流会を実施し、就職への不安の軽減や卒業後のキャリアについて長期的な視点で考えるための情報を提供した。

交流会は次年度以降も計画している。また調査は、さらに対象・内容を拡大して実施する予定である。